

◇ 飛 島 宣 親 君

○議長（小西秀延君） 12番、飛島宣親議員、登壇をお願いします。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 12番、会派しん、飛島宣親と申します。通告に従って、町長に対し2項目6点質問いたします。

1. 農業振興の傾向と多面的な魅力について。

(1)、町内での近年の耕種農業における作付状況や課題について伺います。

(2)、農業施設整備や農業生産への支援の状況と成果について伺います。

(3)、農業と福祉の連携による効果とまちづくりの関係性について伺います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

〔町長 大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君） 「農業振興の傾向と多面的な魅力」についてのご質問であります。

1項目めの「町内での近年の耕種農業における作付状況や課題」についてであります。

本町において耕種農業を営む農家戸数は、個人2戸、法人1戸となっており、作付総面積17.2ヘクタールにおいて16品目の野菜を生産し、主に道内の市場に出荷しております。

出荷額の総額は年々増加傾向にあり、昨年度においては、1億7百万円を超えるまでに成長し、本町における新たな農業形態が構築されつつあります。

また、近年においては、国等の支援制度を積極的に活用しながら、生産基盤の拡充に努めておりますが、一方では、労働力不足や物価高騰による生産コストの増加が課題であると認識しております。

2項目めの「農業施設整備や農業生産への支援の状況と成果」についてであります。

農業経営における生産力や収益力の向上に向けた一つの手段として、農業施設の整備やスマート農業の導入などがありますが、初期投資には多額の費用を要することから、積極的な国等の支援制度を活用することが重要であると考えております。

本町では、直近5か年において、2戸の農家が国の支援制度を活用し、肉用牛舎や園芸施設を整備していることから、これらの支援制度が本町における生産基盤の確立に大きく寄与しているものと捉えております。

3項目めの「農業と福祉の連携による効果とまちづくりの関係性」についてであります。

農福連携については、農業分野における労働力不足といった課題と、障がい者や高齢者等の健康や生きがいをづくりをつなぎ合わせ、相乗効果を生み出す取組であり、町内においても同様の連携が見られる状況にあります。

また、近年では、社会福祉法人が農業に直接参入するなど、経営規模の拡大も見受けられており、今後、福祉分野の人材を積極的に活用することは、一次産業の底上げにつながるとともに、地域共生社会の実現にも寄与することから、重要な取組であるものと捉えております。

○議長（小西秀延君） 12番、飛島宣親議員。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 12番、飛島です。1項目め、農業振興の傾向と多面的な魅力について。

1 点目、町内での近年の耕種農業における作付状況や課題についてです。全国的に耕種農業では労働力不足という現状ではありますが、町内の耕種農家における労働力の現状と実態についてどうなっているかお伺いします。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） ただいまのご質問でございます。町内の耕種農家における労働力の現状と実態についてということでございまして、本町におきましては本格的に耕種農業が始まったのが平成27年度に国の事業を活用し、社台地区で整備が始まりました。収穫をその翌年度、平成28年度から今年度まで考えますと、約7年ぐらいが経過してきているのかと思っております。そこを拠点に現在個人が2戸と法人が1戸の3戸が耕種農業を専属に行っておりまして、その労働力を見ますと正社員数が合計で6名、パート、アルバイトが36名の雇用状況の中で耕種農業を展開しているというところがございます。しかしながら、施設園芸、野菜ですから収穫時期が重なったり、ある程度集中いたしますので、その収穫時期には労働力が不足しているということで、私の聞くところで隣の苫小牧市からも応援に入っていたりとか、白老町で賄えない部分は近隣の市町から応援をいただきながら労働力を確保している状況だとお聞きしております。

○議長（小西秀延君） 12番、飛鳥宣親議員。

〔12番 飛鳥宣親君登壇〕

○12番（飛鳥宣親君） 12番、飛鳥です。この白老町は畜産が盛んなまちであります。牛はもちろん豚、鳥の堆肥が豊富に集まるまちでもあります。この白老町のほとんどが火山礫を多く含む土壌であり、20年前は作物が取れない土地と言われていたと聞いております。家畜ふん尿は相当量排出されており、農畜連携の可能性ががあります。その見解と畜産農家におけるふん尿発生量と利用の状況についてお伺いします。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） ただいまのご質問でございます。畜産農家の家畜のふん尿の発生量というところございまして、まず本町の基幹産業である畜産で見ますと、肉用牛約1頭が1日二十四、五キロのふん尿を出すということが基準になっておりまして、これに頭数、これに年間にしたら何ぼだということが排せつ量になってきますけれども、白老町につきましては家畜排せつ物利用促進計画というものがありまして、その令和3年12月の調査時の数字ですけれども、白老町における家畜排せつ物の発生量は年間で19万4,756トンと推測されておりまして、そのうちの約66%が堆肥化処理されて34%は草地に還元されているというような状況でございます。また、その中で家畜排せつ物の利用については46%が経営内利用、残りの54%が堆肥として商品として販売されているというような状況でございます。畜種ごとの発生量を見ますと、64%が肉用牛、続いて22%が採卵鶏、11%が豚と、残りが馬及び乳用牛となっているということでございます。本町における家畜の排せつ物の総量の中で見ますと92%が企業畜産から排出されているというような状況でございます。

○議長（小西秀延君） 12番、飛鳥宣親議員。

〔12番 飛鳥宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 12番、飛島です。私自身も牛の堆肥など土壌改良に関わってきましたが、個人農家や農業法人の方に聞いたところ堆肥での土壌改良で土化されていること、また栽培技術の向上も伴い、露地栽培ではブロッコリーやトウモロコシが主流でしたが、現在新たにニンジンやセロリなども収穫されており、またハウス栽培でも作付の種類が増えている状況にあります。これからは畜産が盛んな白老町であることに着目して、堆肥による土壌改良を通しもっと野菜栽培を盛んにするべきではないでしょうか。そして、もっと町内産業としてのPRを含め、流通の面も含め、耕種農業を位置づけて支援していくべきではないのか、伺います。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） ただいまの耕種農業の位置づけと今後の展開でございますけれども、実は令和5年度の国の補正が11月に発表されまして、堆肥の国内需要率を高めようということで、今まで海外に依存していた堆肥、肥料、これを国内の自給率を上げていこうということで令和5年度の補正で国の事業が発表されております。これらの事業を活用しながら、もっと利用しやすいような堆肥ですか、トラックで運んで積むではなくて、例えばペレット化だとか、そういうものも今出てきておりますので、乾燥させてペレット化してもっともっと堆肥を利用していただけるとかのような展開とかもしていかないと駄目なのかと思っております。冒頭言った白老町から出る家畜ふん尿の量を見ますと、まだまだ皆さんこの処理をしない限り牛の増頭も凶っていけないと思っておりますので、これらを耕畜連携しながら堆肥を活用し、土をつくっていくということが重要になってくると思っております。

もう一つに町内産業としてのPRということで、白老町の特産品豊富にありますけれども、肉とか加工品は冷凍で持って歩くとか、なかなか限られて持ち運びもできない。野菜も当然どちらかに持っていくというのもなかなか難しいのかと思っておりますので、施設園芸、野菜類、この辺を町内で連携しながら2次加工していくと。常温で持っていけるような商品とかの開発をして、いろんなどころの町内のPRの場でPRしていくような、展開していくようなことも必要なのかと思っております。これらの連携をしながら売り先も確保していかないと駄目でしょうし、流通の面でいきますと輸送していただくトラックも1か所では寄っていただけないという部分もありますので、白老町に何戸が農家が増えていかないと流通面、ずっと白老町を通過されて苫小牧市の市場に行くとか札幌市に行くということになってしまいますもので、その辺も農家戸数を増やして行って、仲間を増やして行って、流通の面でトラックもきちんと止まっていただけるような供給量の確保、これをしていくことが今後重要なのかと思っております。

○議長（小西秀延君） 12番、飛島宣親議員。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 12番、飛島です。よく理解できました。

では、2点目、農業施設整備や農業生産への支援の状況と成果についてです。経営規模拡大に向けた施設整備等には国の支援が有効ですが、1戸の農家では自己負担があり難しいと思います。複数農家による支援メニューの有効活用により地域全体で農業を支えるのが重要と考えます。そこで、現在の国、道の支援制度の活用状況についてお伺いします。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） 国の支援制度の活用状況ということでございまして、本町における直近の10年ぐらいを見ますと平成27年に大きな事業が行われておりまして、攻めの農業実践緊急対策事業ということで社台地区にパイプハウスが17棟整備されたのが始まりで、その後大きな事業といたしましては令和2年度に畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業、俗に言うクラスター事業なのですけれども、このクラスター事業で肉用牛舎を1棟整備しております。翌年の令和3年度に今度は農産漁村振興交付金という事業がありまして、この利用によりましてハウスを2棟、産地パワーアップ事業というものでパイプハウスを20棟ということで、大きな国の事業、総額にしますと全体事業費で10億円ぐらい近年国の事業を活用して町内の生産基盤の整備が図られているというような状況でございます。

○議長（小西秀延君） 12番、飛鳥宣親議員。

〔12番 飛鳥宣親君登壇〕

○12番（飛鳥宣親君） 12番、飛鳥です。それでは、現在の国等の支援制度の活用における課題について伺います。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） この制度活用における課題なのですけれども、これは国の補助事業で、事業費が大きいものですから大体2分の1の自己負担が出てきますので、初期投資には多額の費用が必要だということでございますので、誰もが手を挙げて活用することはなかなか厳しいのかなということと、あと農業分野の補助事業というものは1軒ではなかなか手を挙げて申請、採択されるという事業が少なく、先ほど言ったように何戸か仲間をつくって事業参加するという事業が農業には多いものですから、この辺の仲間づくりというのでしょうか、自分はやりたいのだけれども、1戸しかいないので手を出せないだとか、そういうようなのが今の課題なのかなと押さえておりますので、この辺を皆さんで話しながら、来年度はこういうところの整備事業をしていこうということで皆さん同じ方向で、同じサイクルで補助金を使っていくような、そういう連携が必要かと思っております。

○議長（小西秀延君） 12番、飛鳥宣親議員。

〔12番 飛鳥宣親君登壇〕

○12番（飛鳥宣親君） 12番、飛鳥です。もう一点、胆振就農フェアの参画の状況や予定はあるか伺います。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） 就農フェアの関係でございまして、議員がおっしゃられた胆振就農フェアは1月、年明けに苫小牧市のイオンで開催される胆振振興局が主催の事業かと思っております。残念ながら白老町としては手を挙げておりません。そちらには参加する予定はないのですけれども、フェアに参加しても受け入れる体制がないとなかなか声をかけても来ていただくような受入先がないものですから、就農フェアに参加する必要性は十分にあると思っております。受入れ農家、そういう研修する場をつくってから早急にこういうフェアに出ていくようなことは考えていかないと駄目かなと今は考えているところでございます。

○議長（小西秀延君） 12番、飛鳥宣親議員。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 12番、飛島です。まちとしても積極的に参加するべきではないでしょうか。そういうことにより白老町の農業PRにもなり、移住定住にもつながってくると思いますので、まちとしても真剣に取り組んでいただきたいと思っております。

次に3点目農業と福祉の連携による効果とまちづくりの関係性について質問いたします。人材不足を賄うため農福連携は重要であると考えますが、町内における農福連携の状況についてお伺いします。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） 町内における農福連携の状況ということでございます。まず、先ほど答弁にもありましたが、社会福祉法人が直接農業に参入しているという事例が本町ではありまして、現在社会福祉法人ではベリー類の栽培を行って、かなりの収量は取れるようになってきておりますので、今後ベリー類の栽培が中心となって先ほど言った堆肥が、ベリー類は堆肥を豊富に使うものですから、この白老町の堆肥をうまく使ってベリー類の栽培を行い、施設利用者の方々の就労の場をつくっていているのかと捉えております。また、一方では町内の企業と連携している事業もありまして、カレンデュラなどを栽培して収めているというような取組もあります。もう一方では畜産農家と福祉法人が連携してイチゴ栽培なども行っておりますので、この辺が今町内では多く広がってきている部分かと捉えております。

○議長（小西秀延君） 12番、飛島宣親議員。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 12番、飛島です。農福連携における課題にはどのようなものがあるかお伺いします。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） 課題でございます。まず、1つには送迎の部分、働いていただけの方を送り迎えする人手の確保というのがまず1つ大きな部分かと捉えております。また、先ほど言ったように社会福祉法人が直接そういう農業に参入している部分もありますから、こっちにも来てというようなことがなかなかできない部分もありますので、この辺はニーズに合った、状況に応じた方々の連携も必要なかと捉えておりますので、これは一方通行ではできない連携事業でございますから、その辺依頼する側と社会福祉法人側といろいろと連携を取って、状況を押さえながらやっていく必要があるかと捉えております。

○議長（小西秀延君） 12番、飛島宣親議員。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 12番、飛島です。農福連携は障がい者の社会参画を進めている一方、高齢者の社会参画という側面もあると考えております。世間的には高齢化が課題ではありますが、本町においては人口の約46%が高齢者であり、人材も豊富だと私は考えます。将来の地域の農業を支えるためには農福連携は有効な手法と考えますが、見解を伺って2項目めに入りたいと思います。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） ただいまの高齢者の参画という部分でございまして、本町の高齢化率を見ますと43%以上ということでございます。昨日からの議論の中で高齢者問題等も取り上げられていたかと思っておりますが、裏を返せば高齢者の方が多いということはもっとも農業に関係していただけるチャンスもあるのかと思っております。高齢者大学に通われる学生もいれば友達とパークゴルフをする方もいるでしょうし、ただ多くの方々は家に閉じ籠もっているわけではないでしょうが、家にいる方が大半なのかと思っておりますので、そういう高齢者の方々に農業をもっと理解していただいて担い手として活躍していただけるような場をつくっていく、そういうのを仕掛けていく必要はこれから重要になってくるのかと思っておりますので、その辺健康福祉課だとか高齢者介護課だとかと連携しながら農業分野の振興を図っていききたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 12番、飛島宣親議員。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 12番、飛島です。大変理解できました。

続きまして、2. 白老の魅力発信の在り方について。

(1)、近年の特産品PRの実績と成果について伺います。

(2)、第2次白老町商業・観光振興計画に基づく事業実施の状況と成果及び課題について伺います。

(3)、関係人口創出の重要性と今後の施策展開の考えについて伺います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

〔町長 大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君） 「魅力発信の在り方」についてのご質問であります。

1項目めの「近年の特産品PRの実績と成果」についてであります。

本町の特産品PRについては、道内だけではなく全国各地のイベントに出展しておりますが、苫小牧市内で開催された東胆振物産まつりには8,800名の来場があり、町内の4事業者が出店しております。

また、ポロトミンタラフェスティバルには6,366名の来場があったところです。

本町の特産品の販売のみならず、白老町へお越しいただけるようPR事業に取り組んでおります。

2項目めの「第2次白老町商業・観光振興計画に基づく事業実施状況と成果及び課題」についてであります。

令和4年3月に策定した本計画に則り、地域資源を活用し魅力ある観光地を形成することで誘客につなぎ、地域活性化に努めているところであります。

コロナ禍からの回復途上ということもあり、観光入込客数など未達の目標値もありますが、6年度の間評価により課題整理を行い、地域を活性化させながら目標値の達成を目指してまいります。

3項目めの「関係人口創出の重要性と今後の施策展開の考え」についてであります。

関係人口とは、特定の地域に継続的に多様な形で関わる人のことであり、様々な交流や移住

定住につながるなど、本町としましても重要であると捉えております。

このことから、今後の施策展開につきましては、第6次総合計画や第2次商業・観光振興計画に掲げる施策を実施し、関係人口の創出・増加を図れるよう努めてまいります。

○議長（小西秀延君） 12番、飛島宣親議員。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 12番、飛島です。1点目の近年の特産品PRの実績と成果についてです。私は、今年の10月7日に白老町のPR活動として8年前から出店し、今年で5回目となる東京都みなと区民まつりに参加いたしました。農畜産物を中心とした販売所の前には常に行列ができ、用意したものを全て完売いたしました。大盛況な様子を見て、白老町の魅力と秘めた力を確信するとともに、白老町の主要な産業とも言える第1次産業の可能性と知ってもらうことの大切さを実感いたしました。そこで、近年のイベント参加として東胆振物産まつりやまちで力を入れているイベントでは実際にどれくらいの人が入っているかお伺いします。

○議長（小西秀延君） 工藤経済振興課長。

○経済振興課長（工藤智寿君） 近年のというお話もございましたので、4年、5年ほど実施されておりませんが、代表的な白老牛肉まつりが大きく挙げられるのかと思っております。約5万人のお客様に来場いただいておりますが、このほかにはお話がありました東胆振物産まつりでは令和3年度においては8,200人、令和4年度では9,200人、それから町長から答弁がありました令和5年度についても8,800人ということで、3日間で多くのお客様にご来場いただいております。また、商工関連ではこちらのほかに今年度、それから昨年度も参加はできなかったのですが、札幌市で開催されましたオータムフェストであったり、札幌市内のホテルを会場に北海道商品取引商談会という催しがあったりですとか、様々な部分で参加させていただいているほか、姉妹都市交流の関係ではつがる市において実施されています食と産業まつり、メロン・スイカフェスティバル、そのほかに仙台市における仙台・青葉まつりに関係しております関連事業であります仙台・宮城の味と技フェアなども実施、参加させていただいております。さらには、観光関連のイベントや移住関連のイベント、さらにウポポイ、アイヌ関連においてもそれぞれ特産品のPRをさせていただいておりますし、先ほど来お話のある一次産業では朝市や夕市、そのほかJAと一緒にやっております農産物フェアも特産品のPRという一面もあるのかと捉えているところでございます。そのようなことで多くのお客様に来ていただいているイベントもたくさんあるという答弁をさせていただきたいと思っております。

○議長（小西秀延君） 12番、飛島宣親議員。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 12番、飛島です。今聞いたのですけれども、それぞれ今までやられたイベントの中で課題をどのように捉えておりますか、伺います。

○議長（小西秀延君） 工藤経済振興課長。

○経済振興課長（工藤智寿君） 昨日の議会でもイベントの課題のようなお話が何点か出ていたかと思いますが、やはり1つはそれぞれのイベントにおける足の確保、これはイベント会場までに行く足の確保が1つ重要であり、多くのお客様に来ていただくという観点でも必要な部

分ということもあります。

それから、もう一つはPR、周知という部分でございます。我々がイベントを行っても皆様に知っていただかないと来ていただけないということですので、様々なPRをさせていただいておりますが、それが全てうまくいっているかというところ、そうではない部分もたくさんありますので、その辺は十分これからも研究しながらといいますか、反省点も踏まえながらPR活動もしていかなければならないなと思っています。

さらに、もう一つ課題として捉えておりますのは定番化といいますか、事業を継続していく中で定番化されて皆さんに知っていただく部分があるのと裏腹といいますか、もう一つ言えるのは逆にマンネリ化というか、言葉として適切かどうか分かりませんが、同じようなことばかりやっていると飽きられるといいますか、そういった側面もあるのかというところが1つの課題であると捉えているところでございます。

○議長（小西秀延君） 12番、飛島宣親議員。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 12番、飛島です。改善点を含め、どうやっていけばもっとPRが発揮されると捉えておりますでしょうか、お伺いします。

○議長（小西秀延君） 工藤経済振興課長。

○経済振興課長（工藤智寿君） どちらのイベントに対してもやった後、事前もそうなのですが、反省点も踏まえて関係者の中でいろいろ協議しながら次に向けてまた新たな課題を整理していくということが、PDCAサイクルを回すような考え方も1つ重要になってくるかと思っておりますし、足の確保であったり、PRの部分1つ取っても近年は特に若い方にはSNSの部分であったりとかという周知の在り方という部分は、従来に加えて新聞折り込み等も中心にやっているイベントが多くございますが、SNSの活用ですとかという部分も1つ重要になってくるのかということがありますので、そういったことを総合的に取り組みながら、各イベントにおけるご来場、来ていただくため、それぞれまちの魅力発信に努めていかなければならないと捉えております。

○議長（小西秀延君） 12番、飛島宣親議員。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 12番、飛島です。そういったことを繰り返していく継続も私は必要だと思いますし、白老町の新たなメインキャラクターや地元タレントなど白老町にもっと親しみを持てるシンボルも必要だと思っております。まちとしてはそういったところをどのように考えておりますか、お伺いします。

○議長（小西秀延君） 工藤経済振興課長。

○経済振興課長（工藤智寿君） キャラクターといいますと、これは我々反省すべきところもあるのですが、周知がうまくいっていない部分もありますけれども、過去にはゆたらですとか、それから昨年地域おこし協力隊の隊員がウエちゃんという新しいキャラクターをつくってイベントもさせていただいております。まだまだ浸透していない部分はありますので、これは我々のPR不足というところ、反省点も踏まえてこういったものをより活用できないかということ



も十分考えていかなければならないのかと思っております。また、皆さんご承知かと思えますけれども、ウポポイではトゥレップンといったキャラクターがいろんな場面に出てきておりますので、そちらについてはウポポイ側とも連携しながら事業を進めていかなければいけないかと思っております。

また、タレントというお話もございました。タレントと申しますか、町では白老町観光大使ということで、15人と1頭、観光大使に任命させていただいております。観光大使の方にはそれぞれの場面と申しますか、それぞれの活動の中で白老町のPRをしていただいていると捉えておりますが、なかなか白老町にいらっしゃらない方がほとんどでございますので、それぞれの地区と申しますか、それぞれの活動のところでPRしていただいておりますが、まだまだ知れ渡っていない部分もありますので、こちらも町と連携をさらに深めながらPRさせていただければと考えております。

○議長（小西秀延君） 12番、飛島宣親議員。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 12番、飛島です。理解できました。ただ、ウェちゃんは知らなかったです。

今後のために今までの課題と反省を踏まえて私としては継続することも大切ですし、新しくやっていくことも必要だと思っております。その中で、まちだけではなく町民の力や事業者の力も借りながら、皆さんを巻き込んだ中でやっていくことも必要ではないかと思っております。そういうこともぜひやっていただきたいと思っております。それがひいては白老町の地域振興にもなるし、関係人口の創出につながると私は思っております。

また、特産品の商品開発にも支援すべきではないでしょうか。特産品の開発がふるさと納税対策にもつながると思えます。一例でまちのお店の店主の声ですが、冷凍品は解けてしまうため、お土産品としては持ち運びが難しい場面もある。そこで、レトルト化したいという意向を持っていますが、試作品など経費がかさむことでためらっているとのことでした。試作品の支援を促し、事業者の開発を支援し、町内経済の活性化に寄与してはどうか、まちとしての考えを伺います。

○議長（小西秀延君） 工藤経済振興課長。

○経済振興課長（工藤智寿君） 前段で事業者も巻き込んだというお話がございました。まちの魅力発信ということは白老町役場のみならず、先ほど一例としまして地域おこし協力隊の方のお話もしましたが、当然地域おこし協力隊や、それから事業者の皆様、町民の皆様も一人一人がまちのPRをしていただくことによって多くのお客様にも来ていただけるものと我々も思っておりますので、町民の力、皆さんの力をもって巻き込んでいって関係人口の創出につなげていかなければならないと私は思っているところでございます。

それから、2つ目の特産品の開発の絡みでございます。冷凍食品のお話もございました。実はご相談いただければ国の補助制度、中小企業庁にこういう商品化、開発する補助制度のメニューとかもございますし、そういった補助メニューもホームページ等でもお知らせさせていただいているところであります。もし分からないことがあれば逆に我々のところにご連絡いただ

ければそういったことでおつなぎすることもできますので、ひとつこちらのほうも活用していただければと思います。お話のあった商品開発の部分はふるさと納税の関係でも、例えばタラコがたくさん一つでどんと入っているものではなくて、小分けにすることによって売れるということもお話として聞いてございます。ですから、見せ方といいますか、商品の詰め方一つでもまた違った商品になるということもありますので、そういった工夫は事業者の声を聞きながら、我々も取り組めるところは一緒に取り組んでいきたいなと思っているところでございます。

○議長（小西秀延君） 12番、飛島宣親議員。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 分かりました。

それでは、2点目、第2次白老町商業・観光振興計画に基づく事業実施の状況についてです。第2次白老町商業・観光振興計画を私も拝見いたしました。その中で、例えば観光入り込み客数の問題であったり、いろいろ数値を掲げていますが、その中で観光入り込み客数と新規創業支援件数の現状値はどうなっているかお伺いします。

○議長（小西秀延君） 工藤経済振興課長。

○経済振興課長（工藤智寿君） 第2次白老町商業・観光振興計画にてK P Iとして、例えばですけれども、観光入り込み客数の指標を設けさせていただいております。令和2年度現在値では177万4,000人の入り込み客数のところをこの計画の最終年度であります令和9年度においては350万人という目標を掲げさせていただいております。では、現状値はどうかということでも申し上げますと、令和4年度においては220万2,000人で、こちらについては目標値に遠く及ばないといえますか、届いていないというような現状でございます。また、平成27年度から実施しています空き店舗等活用創業支援事業という事業をさせていただいておりますが、その中では今まで28件の補助を受けた中で創業されているという現状になっておりますが、こちらについては目標に掲げている数値を超えているような状況になってございます。こちらについては新規創業件数が、こちらは第6次白老町総合計画にも掲げさせていただいておりますが、目標値、令和9年度は12件というところをこちらはもう既に28件ということで、目標値はこの部分については超えているというような現状になってございます。

○議長（小西秀延君） 12番、飛島宣親議員。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 目標値以上のところもあるのでしょうか、かなり厳しい数字も、目標値に届かないところもあると思います。それでは、どういう工夫でもう少し上げていくこと、目標値に近づけるようにまちとして考えているのか、伺います。

○議長（小西秀延君） 工藤経済振興課長。

○経済振興課長（工藤智寿君） 今は観光入り込み客数のお話でご質問をいただいておりますので、そちらで答弁させていただければと思いますが、観光誘客については様々な場面で、先ほどイベントという中でもお話をさせていただきましたが、例えば北海道観光振興機構という団体と一緒にPR活動させていただいたりですとか、それから白老町独自で観光協会、それ

からアイヌ協会も含めて札幌市内の学校を回ったりですとか、そういうこともさせていただいております。また、隣まち、登別市とは登別市・白老町観光連絡協議会という協議会の中の事業として観光誘客にも努めております。ただ、まだそういったことの中で目標値には届かない現状ではありますが、誘客活動の強化、さらには先ほど言ったPRの強化、それからホームページ等でも周遊コースの案内もさせていただいておりますが、まだまだ改善の余地もあるというところでそういったPR活動の強化であったりとか、今やっているところの様々な事業の見直しも含めながら、できるだけ目標値に掲げている350万人に近づけていかなければならないと捉えているところでございます。

○議長（小西秀延君） 12番、飛島宣親議員。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 12番、飛島です。PRといえばホームページの閲覧数とかSNSのフォロワー数、この2点、現状値はどうなっているのか、お伺いします。

○議長（小西秀延君） 工藤経済振興課長。

○経済振興課長（工藤智寿君） ホームページのアクセス数です。令和2年度のとき、当初はアクセス数35万件に対しまして令和9年度の目標値としては100万件という目標を掲げさせていただいてございます。令和4年度の実績でございますが、57万件ということで、ようやく半分を少し超えた程度というところでございます。また、協会でのフェイスブックのページでフォロワー数を拾ったところ令和3年度では848人のフォロワー数でございました。令和9年度においては目標値3,500人で、今年度、11月29日時点で確認させていただいたところ、3,856人ということで、こちらは目標値を超えたということで、まだまだこれから伸ばしていかなければならないのかと捉えているところでございます。

○議長（小西秀延君） 12番、飛島宣親議員。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 12番、飛島です。理解できました。

白老の魅力発信の在り方についての質問で、今まさしく若い世代の方はホームページよりSNSを見ていると思います。私も例えばよそのまちに行った際には、食事に行くときにはスマートフォンでおいしい店を探したりもしております。若い方はSNSを使う、そういったフォロワー数を上げていくことも魅力発信として非常に重要だと考えております。

そこでまちとしてこうやって目標値を掲げておりますが、まちの実態としては今どのような状態であるか、お伺いします。

○議長（小西秀延君） 工藤経済振興課長。

○経済振興課長（工藤智寿君） 魅力発信というか、SNSでのお話でございました。これは我々も大きな課題の一つと捉えておまして、お話があったとおり若い方の訴求力といいますか、SNSを活用することによって白老町に行ってみたいですとか、ちょっと興味を持っていただくということにつながってくると捉えております。

ホームページ上では多言語化も済ませました。そういった取組もさせていただいておりますが、令和3年度において観光協会のホームページを大幅に改定させていただきまして、令和4

年度に多言語化を進めさせていただいたところがございます。先ほどの答弁とも重複しますが、周遊コースということでホームページ上内でも掲載させていただいておりますが、過去の議会からも指摘を受けたところでありますが、まだまだ改善の余地があるといえますか、言葉は悪いのですけれども、観光地を羅列してこう回りますよというだけではなくて、こういうお勧めコースがありますよとか、こういったものがありますよですとか、様々な多角的な視点といえますか、そういったものが少し欠けているような部分があるということと、それから現在3つのコースしか載せていないということで、周遊に至っては3つでいいのかということも確かにございますので、そういったところもまだまだ改善の余地があると思っていますので、町と、それから観光協会と一緒にあって、もっと見やすく、分かりやすく、多種にわたってそういった工夫もしていかなければならないと思っていますので、そういうことで皆さんに見ていただけるようなものにしていかなければならないなと捉えてございます。

○議長（小西秀延君） 12番、飛島宣親議員。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 大変理解できました。

では、3点目の関係人口創出の重要性と今後の施策展開についてです。1点目、2点目で質問してきました。様々な課題を聞いてきましたけれども、先ほど指標の話も聞きました。でも、指標に届いていないこともあります。その中において全体的にまだまだ改善していかないといけないと思っています。白老町はウポポイができて少し全国的に浸透されているかもしれませんが、まだまだ札幌市や函館市といったような北海道で誰もが思いつくような名所にはなっておりません。そのためにどういったことをやっていくことにPR、魅力発信できるか、魅力発信していくということは関係人口にもつながっていく、最終的には移住定住にもつながっていくかもしれません。関係人口の重要性を、もう一度お伺いします。

○議長（小西秀延君） 工藤経済振興課長。

○経済振興課長（工藤智寿君） 関係人口の重要性ということでのご質問かと思えます。関係人口は、現状地域との関わりが強いですが、地域への思いが強い方が関係人口につながってくると捉えてございます。例えば交流人口といいますと観光に来られる方、来て楽しかったなというだけではなくて、地域のことを思ったりですとか、このような部分でふるさと納税してみようかですとか、そういった関わりをどんどん深くしていくのが関係人口、飛島議員もお話がありましたとおり、これがひいては移住定住につながる重要な部分であると思えます。そのための魅力発信ということでお話がありましたが、観光分野としましては、先ほど来言っているとおりの様々なイベントであったり、誘客活動をさせていただいてもらったり、それから周遊なんかもいろいろ、ウポポイも含めて一緒にやらせていただいている部分もでございます。まだまだ弱い部分はありますが、そういったことにトライしながら、また課題を見つけながら課題整理を行い、誘客活動、それから観光振興を努めてまいりたいなと思っています。

○議長（小西秀延君） 12番、飛島宣親議員。

〔12番 飛島宣親君登壇〕

○12番（飛島宣親君） 12番、飛島です。では最後に、今まで農業振興から魅力の発信の在り

方についていろいろ質問、議論させていただきました。最後に町長自身の魅力発信の在り方について、PRの重要性について見解を伺って、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 白老の魅力発信の在り方ということで飛島議員からご質問をいただきました。今回その中で飛島議員から特産品の開発であったり、あとはSNSの活用であったりというご提言をいただきました。私が思うところに魅力発信という部分につきましては、まずはたくさん魅力のある白老町を知っていただかないと始まらないと思っているところでございます。1つウポポイを例に挙げてお話をさせていただきますと、今年も道外で白老町とウポポイのPR活動ということで私も参加させていただきました。国のお力もあって、ウポポイというのは道外でもかなり浸透してきているのですけれども、ウポポイがあるまちが白老町だというのが、ここがまだまだイコールで結ばれていないということで、飛島議員からお話のあったように、まだPR不足なのではないかというようなお話はしっかりと受け止めさせていただきたいなと思っております。

魅力発信というのは、いろいろと関係人口であったりですとか、もっと白老町の魅力を知っていただくためには本当に必要なことだと思っておりますので、ただその一つの中ではPR、先ほどイベントの話もあったのですけれども、これがマンネリ化してはいけないというようなことなものですから、PR活動であったり、イベントの開催であったり、これはしっかりと町としても磨き上げといいますか、そういったことは今後も引き続きやっていかなければならないなと思っております。ですから、そういったことも含めて魅力あふれる我がまち白老町をどんどん発信していきたいと、その情報発信、魅力発信については力を注いでいきたいと考えております。

○議長（小西秀延君） それでは、12番、飛島宣親議員の一般質問を終了いたします。